

# エー A ジー G ファイブ 5 だよ

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業 (<https://ag-5.jp>)



## AG5の5年間と補習授業校のこれから

AG5 運営指導委員・海外子女教育振興財団 教育相談員 佐々信行

5年間にわたって続けてきたAG5プロジェクトが間もなく終わりを迎えます。この5年間に何ができたのか、そして、プロジェクト以後に何を引き継いでいけるのか、「補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発」について振り返ってみたいと思います。

### 「補習校チーム」で取り組んだ活動

最終年度にあたる二〇二一年度は、補習授業校関係の三つのグループが活動しています。

#### A. 補習校ネットワーク授業研究

「補習授業校における日本語能力向上」の具体的な目標は「日本語力の違う子どもたちが一緒に力を伸ばしていく授業」を作っていくことです。児童生徒の多様化に伴い、数年内に帰国する予定の子どもと当面帰国の予定のない子どもが机を並べるのは普通のことになりました。一つの教室の中に日本から来たばかりの子どもと日本に行ったことのない子どもが一緒にいることさえあります。

「説明して分かる」というタイプの授業では、どうしても「どこかのレベルに合わせる」ということになりがちです。ある子にとっては難しすぎる、ほかの子には易しすぎる、というのでは一緒に学ばせることはできません。

クラスを分けるとするのは一つの解決策ですが、いくつに分けてもその中には力の差がありますし、「できるクラス」「できないクラス」とい

う発想になると、「できない」方はなかなか意欲的になれません。

そこで、子どもたちに日本語を使う活動をさせることによって力を伸ばしていくという発想の授業を工夫しようと考えました。体育の授業では、運動が得意でない子どもでもそれなりに体を動かして参加することができます。それは、授業が活動の組み合わせで構成されているからです。体育の授業が好きな子どもが多い理由の一つはここにあります。

言葉の学習には「聞く」「読む」「話す」「書く」の四つの領域があります。「聞く」「読む」では、「難しすぎてさっぱり分からない」という状態になると学習が全く進みません。しかし、「話す」「書く」の方は自分の力の範囲で何らかの表現をすることができます。ですから、授業の中に「話す」「書く」の活動を多く取り入れるのが良いと考えられます。

いわゆる、ラーニング・ピラミッドの考え方では、「グループ討論をする」「自ら体験する」「人に教える」などの活動をするとう学習した内容が定着しやすいと言われています。科学的な検証はともかくとして、経験からくる実感としてはうなずけるところがあります。このような活動を取り入れるのも楽しい授業を作って

いくための有効な方策となります。子どもがじっと座っているのではなく、言葉を使う活動をする授業を作っていくことで、「日本語の力が違っても一緒に力を伸ばしていく」環境を前進させることは可能なのです。「日本語は無理、日本語は嫌い」と、補習授業校を去っていく子どもの数を減らすことができるのではないかと期待できます。

AG5の最初の三年間は提携校であるダラス補習授業校の先生方に、二〇年度からはダラスに加えて各地の補習授業校の先生方に授業を提供していただき「学習活動計画」を作成しました。作成過程の検討会や授業後の研究会では「補習校ネットワーク」に登録した世界各地の先生方にご協力いただいています。二一年度には登録者数が二五〇名を超えました。子どもたちの姿には、確かな手ごたえがあります。保護者からの「今までは補習校をいやがっていたけれど、この学習には楽しそうに取り組んでいました」という声は何よりの後押しです。

一九年度までに作成した学習活動計画は冊子にまとめて提供しています。その後のものも含めた詳しい報告はAG5のウェブサイトにありますので、ご参照ください。

・楽しく日本語を伸ばす補習授業校  
学習活動計画集



<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme4/DallasPlanBook.pdf>

・AG5のウェブサイト



<https://www.ag-5.jp>

おりしも、新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」がうたわれています。国内でもずいぶん前から「子ども中心の授業」や「アクティブ・ラーニング」というようなことが言われていますが、基本的な授業の形がそれほど変わっていないように見えます。

その理由の一つには、子どもの多様性がそれほど大きくない日本の学校では、教え込み型の授業でもそれなりに効果を上げることができるといえるように思えます。

否応なしに「主体的・対話的」な授業を考えなければならぬ補習授業校から、日本の学校に新しい風を送ることができるとは思いません。

二一年度には、補習校ネットの先生方に、授業研究のための授業提供

を呼びかけたところ、何人かの先生方が手を上げてくださいました。ベテランの方も、まだ経験の浅い方もいらっしやいます。授業を良くしていくために自主的に研究を進めていくという理想的な研究グループの基盤ができてきたと思われまます。

AG5終了に伴って「提携校」はなくなり、「補習校チーム」は解散となりますが、何らかの形でこの研究の場を継続していくことが望まれます。意欲のある先生方がいますし、必要性を理解してもらえれば環境も整ってききましたので十分に可能だと思います。

### B. 補習授業校初任者研修会

私が教員になって最初に二年生を担当した時、痛感したのは、「小さい子に分かるように話すのは難しい」ということでした。子どもが言うことを聞かないのは言われていることが分からないからでした。教室へ行く階段を上る足が重かったのを覚えています。

補習授業校の先生で、自分がそうなることを予想していた人は少ないのではないのでしょうか。ほかにいいからと頼み込まれて引き受けることになった方もいるに違いありません。教員になるつもりで何年も準備

して来た人であつてもたいへんなのですから、いきなり教えなければならなくなつた苦労は相当なはず。本当はかわいい子どもたちが悪魔に見えることさえあるでしょう。

普通の学校であれば、初任者には研修の機会を計画的に設定して応援します。仕事を楽にするような情報や授業の技術などは、機会さえあればかなり伝えることができるのです。相談できる経験者がいれば解決できる問題も少なくありません。

しかし、一つ一つの補習授業校にはなかなかその余裕がありません。補習授業校の先生が集まつて研修会を持つことはできないかという要望は以前からありました。図らずも、新型コロナウイルスの感染拡大によってオンライン会議を活用する環境が一気に進み、好機が訪れました。

二〇年度に、AG5「補習校チーム」のメンバーやダラス補習授業校などの経験豊富な先生たちが講師を務める形で「補習授業校初任者研修会」を実施しました。初めてのことで、先生たちの期待に十分応えるだけのものはできませんでしたが、それでも「助かった」「役に立った」という反響をいただきました。

二一年度は一年目の経験を生かし、参加者のみなさんにより積極的に参

加していただく形を工夫して実施しています。参加者同士の交流の機会も設けることができるようになりました。参加者数は七月末の時点で一八九名、その所属校は七八校（アジア五校、大洋州四校、欧州三〇校、北米三七校、中南米二校）です。

このような研修会が、補習授業校の先生方にとって大きな助けになることは疑いありません。「補習校ネット」の授業研究と同様、AG5終了以降も続けていけるように工夫していかねばならないと思えます。

### C. 補習授業校情報交換会

それぞれの回にテーマを設定し、関心のある方に自由に参加していただくオンラインのミーティングです。二〇年四月に始めてから、すでに三〇回以上を数えます。メンバーリストには三〇〇名以上の補習授業校の教員や関係者などが登録しています。

テーマによって多い時には一〇〇名以上、通常は四〇名から六〇名くらいが集まります。「聞きたいこと」を出し合い、資料を提供し合つて一時間ほどの交流を持ちます。

ここで知り合った先生たちがグループを作り、二〇年度には補習授業

校や日本人学校を結んで「SDGs」の研究會が、二一年度には遠く離れた幼稚園児たちが一緒にオンラインで楽しむ交流會が実現しました。

リクエストに応じてテーマを設定するので、その時期に必要な話題が話し合われます。オンライン授業の進め方や、登校できない中での学校行事のあり方など、「この会で具体的な方策を学んで助かった」という声が多く参加者から聞かれました。時間をかけて作り上げた行事のプランを提供してもらい、実際に行った結果まで聞かせてもらえれば、短い時間で自分の学校に合った計画を立てることができません。

具体的な情報を得るだけでなく、世界各地の補習校関係の人たちと知り合うことも大きな収穫になっています。すぐに答えが見つからなくても、同じ願いをもってがんばっている人たちの顔を見て声を聞くことは、元氣と勇氣の源になります。

この二年間は、新型コロナウイルスに関連してたくさん初めての課題に対応しなければなりません。ウイルスの問題が落ち着いたとしても、新しい課題はいつでも目の前に現れます。聞きたいときに知りたいことが聞ける機会を、AG5終了以後も何らかの形で継続していけ

たらと思います。

このほかに、自由な交流とAG5からの広報のために立ち上げた「補習校教員交流Facebook」があります。こちらは三三〇名余りのメンバーがありますが、少しずつ増え続けています。いろいろな角度からの情報交換され、補習授業校の直接の関係者でない方もメンバーになっています。補習授業校を広く知ってもらうためにも一役買っていると思われます。引き続きこの輪が広がっていくことが期待されます。

#### ・補習校教員交流Facebook



<https://www.facebook.com/groups/1664125650300837>

#### 補習授業校のこれから

AG5の開始に先立ち、アメリカの補習授業校教員を訪問して先生方と話をする機会がありました。その時に最も強く言われたのが「先生同士の交流の機会がほしい」ということでした。小さな補習授業校では同

じ学年を教える先生が一人という場合もあります。同僚の先生がいたとしても限られた時間の中では授業時間以外に交流することもままなりません。事情は私たちにもよく理解できました。

ビジネスの世界ではオンラインのミーティングがすでに活用され始めていました。私たちもその可能性を認識して活用を試みましたが、今一つハードルが高いものでありました。ところが、コロナへの対応でみなさんが一気にオンライン会議に慣れ、システムも使い勝手が良くなり、離れたところにいる人が集まって話すことが日常になりました。

今ももう、その気になれば物理的な距離を気にすることなくつながって力を合わせることもできます。補習校の先生たちにとっては、新しい時代の到来です。この新しい環境を積極的に活用して、一人で悩むことなくつながりを広げていっていただきたいと思えます。私たちも、AG5終了後も引き続きそれをお手伝いできるように工夫してまいります。

私が最初に補習授業校で教師としてお世話になったのは一九七四年のことですが、そのころと比べると、世界の補習授業校の様子はだいぶ変わりました。今では、近い将来日

本に帰国する予定の子どもたちだけでなく、いろいろな立場の子どもたちが学んでいます。

日本語の力が違う子どもたちが一緒に学ぶことは、補習授業校に難しい課題をつきつけてはいるのですが、その課題をいくらかでも克服していくことで、補習授業校の新しい可能性が見えてきます。

AG5で活動した五年間に会ったたくさん先生方は、目の前の子どもたちの学びの環境を少しでも楽しく充実したものにしようとして懸命授業に取り組んでいました。その姿は本当に心強いものです。

多様な人々がお互いの価値を認め合い、多様な子どもたちがともに学ぶことは、これからの世界にとってとても重要な課題です。残念ながら、今の日本の学校は、この点に関してはけっして世界に誇れるような状態ではありません。しかし、日本国内でも、海外でも、いろいろな立場の日本人がより望ましい未来に向かって努力しています。補習授業校の新しい姿を求めていく活動がその運動の一つの力となることを信じています。補習授業校で育っている子どもたちが、将来を担う大きな希望であることもまた、間違いありません。